教科	国語	学年	I	クラス	Ad/Ba	担当	佐藤/田中/矮松

教科目標	基本的な国語の知識を知り、社会生活の中で必要な考える力や他者に共感する力、表現する力を育む。

科目	現代の国語/言語文化

	前期	後期
学習内容	〇ことばの単位、国文法（主語・述語・修飾語 ※Adのみ+接続語,独立語） ことばや文の構成や成り立ちを知ることで、 正しい文章や論理的な思考を身に着ける。【Ad田中/Ba矮松】 【田中】 〇評論「未来をつくる想像力」 ・筆者が述べる「想像力」の大切さを読み取り、自身の考えを深め生活にいかす。 ・「メディア」の特徴を知り、「想像力」を生かしたメディアとの付き合い方を考える。 〇随筆「ルリボシカミキリの青」 ・筆者の幼少期の体験を読み取る。 ・自分の興味、関心のあるものについての原点を知る。 ・好きなことを追求するということは人生を豊かにする。 【矮松】 〇小説「デューク」 ・物語の舞台や登場人物に関する設定を読み取る。 ・登場人物の人物像やその関係性等について、作品内の記述から直接的に書かれていない部分まで推測して解釈する。 ・物語中の伏線を捉え、それを基に解釈をしながら物語を味わう。	【佐藤】 〇詩「二十億光年の孤独」 ・詩という形式、表現方法について学ぶ ・作品を通して、詩の読み取り方、自己の表現について学ぶ 〇国文法（自立語・付属語・品詞） ・普段使っていることばの役割や働きを学ぶ（古文への導入） 〇古文基礎 ・現代仮名遣いを学び、古文の基本的な読み方を身に着ける 〇古文「竹取物語」 ・古文の読み取り方を学ぶ ・古文を通して日本の文化に触れる 〇古文の文学史（三大随筆について） ・古文における随筆について学ぶ 〇古文「枕草子」 ・古文を通して、表現の仕方を学ぶ ・日本人特有の季節の感覚を味わい、自分で表現する 〇評論「真の自立とは」 ・自立とは、助け合って生きていくということを学ぶ ・「できる」「できない」の価値観からの脱却 ・自身の体験を客観視し、みんなと共有する ・一人ひとりの個性を尊重すること （→得意なことは生かし、苦手なことは互いに補っていく） 【矮松】 〇敬語 ・敬語の種類(尊敬語・謙譲語・丁寧語)とその役割・使う場面などを理解する。 ・よく使われる動詞の尊敬語や謙譲語を覚え、使えるようになる。 ・不適切な敬語表現を見分け、適切なものに直せるようになる。 〇漢文の基礎 ・漢文独特の言い回しに慣れ、訓読法の基本を理解する。 〇故事成語 ・故事成語の意味とその成り立ちを理解する。 ・故事成語の成立に関わる故事を訓読文で読み、現代語訳とどのように対応しているかを理解する。 〇漢詩の基礎（Adのみ） ・近代詩の形式や決まりについて、基本的な内容を理解する。

理解度の目標値 (期末補習の基準)	・ことばの単位、主語・述語・修飾語について理解をしていること ・随筆の読み取りができ、筆者の考えを説明できること ・作品を通して、自身の考えを深め、論述できること ・自分の興味や関心のあることを表現できること ・作中に出た漢字の読み書き、語句の意味を身に着けていること ・文学作品の登場人物の心情を根拠をもって推測できること	・詩の形式や表現方法を理解していること ・詩を読んで感じたことを論述できること ・単語について、自立語・付属語・品詞を理解していること ・古文の現代仮名遣い、係り結びを理解していること ・古文の三大随筆を理解していること（表現方法を含む） ・古文を通して、自分が感じた季節の感覚を自分で表現できること ・真の意味での「自立」を理解していること ・基本的な敬語の種類や用法に関して理解し、適切に使えること ・訓読法や近体詩に関する基礎的な知識を理解をしていること ・自分自身の体験やそこから得た気づきについて、論述できること
学習上の ポイント	・基本的な国文法を身に着ける　・古典における文法や訓読法を身に着ける ・自分の考えを素直に出す作業に慣れる　・各文章の読み取り方を理解する ・知らない言葉や理解の曖昧な言葉に出会ったとき、そのままにせずに意味を調べる習慣を作る	
その他の学び	・授業で扱った単元の応用 ・作文に慣れる　・正しく美しい日本語を使う ・自分の読んだ本の紹介をする ・漢字や語句の知識を増やす（語彙力）　・根拠や理由を持って自分の考えを述べる ・俳句に関する基礎知識を学び、身近な出来事を俳句の凝縮された表現に表すことを体験する。	
教科を通じて 学んで欲しいこと	・正しい国文法を学び身に着けることは、相手に自分の気持ちを正しく伝えることにつながる ・自分の考えを持ち、その考えを大切にすること（素直な考えを記述する） ・作品を通して、考えや感情の表現の仕方を学ぶこと。表現することの楽しさ ・古典を学ぶことで、日本特有の感覚や文化について知り味わう	
学習教材	東京書籍　新編現代の国語 東京書籍　新編言語文化	
その他	・漢字の学習プリント（漢検対応）を配布。毎週水曜日にテスト→満点合格、できないところは練習プリントに取り組む ・マナトレ・・・火曜日の冒頭に導入（集中力UPと作文の確認のため）	

2025年度(令和7年度)【通学型】

教科	地歴・公民	学年	1年	クラス	学年共通	担当	児玉

教科目標	社会にある様々な事象について学び、知識を習得して視野を広める。また、その知識をいかしながら考えや意見を持つことができるようにし、自分の考えを様々な方法で表現・主張することができる。他者の意見を様々な観点で受け入れ、自己の理解を深める。過去の出来事が現代の様々な社会的事象につながっていることを理解する。

科目	公共/地理総合

	前期	後期
学習内容	○公共 1.「民主主義とは」 …民主主義の手続きや方法について具体例をあげながら理解するとともに、その課題について考える。 2.「立憲主義とは」 …日本の憲法を踏まえながら、法の支配や立憲主義の意義について、基本的人権の尊重や権力の濫用防止の観点から理解する。 3.「日本国憲法と三つの原理」 …日本国憲法における三つの原理を確認したうえで、主として基本的人権の尊重や人権保障の意義を理解する。 4.「私たちの民主政治・地方自治のしくみ」 …地方自治などにふれ身近に存在する政治に気づくとともに民主主義に関わる制度や活動についてりかいする。 5.「国会のしくみと役割」 …三権分立、国会のしくみと役割について理解する。 6.「内閣のしくみと役割」 …内閣と国会の関係、内閣のしくみと役割について理解する。 7.「司法のしくみと役割」 …司法権と裁判のしくみ、違憲審査権について理解する。 8.「政治参加と選挙」 …日本の選挙制度と課題について理解をする。18歳から選挙権を有することを踏まえ政治参加の意義に気づく	○公共 9.「私たちと経済」 …希少性、機会費用、トレードオフについて、経済の特色を捉える基本概念であることに気づくとともに経済循環を理解する 10.「市場経済のしくみ」 …市場経済における価格の働き、市場の失敗と政府の役割について、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 11.「国民所得と経済成長」 …経済成長とその要因、景気変動と物価について実際の経済事象とも関連させながら理解する。 12.「金融のしくみと働き」 …金融と金融システムが日々の生活と密接に関わっていることに気づくとともに、中央銀行の役割、金融政策について理解する。 13.「財政の働きと課題」 …財政の三つの機能や歳入歳出構造の変化の背景に気づき財政の動きに関心を持つとともに、租税の分類や国債の役割財政問題について、実際の事象とも関連させながら理解する。 14.「私たちの職業生活」 …働く意義、職業選択のポイント、キャリア形成労働者の権利、現代の雇用問題について具体的な事例を取り上げて理解する。
	○地理総合 1.「地図や地理情報システムでとらえる現代世界」 ・緯度と経度 …地軸の方に向きや自転・公転による影響を理解する ・世界地図と地図の種類 …地図の種類を理解し活用方法を考える。地図の読み取り方法を学ぶ ・日本の位置と領域 …日本の位置と領域を理解した上で排他的経済水域の重要性について考える。 2.「人々の生活文化と多様な地理的環境」 1.宗教と人々の暮らし …世界の宗教の分布や特徴的な生活習慣や規範を理解する。 2.多様な気候とその分布 …気温や降水量に地域差が生じる原因を理解し、それらが衣食住に与える影響を考える	○地理総合 3.「さまざまな地球的課題と国際協力」 ・地球環境問題 …環境問題の発生が人間生活によってひきおこされていることを理解しその対策を学ぶ ・資源・エネルギーの偏在 …エネルギー資源の種類や再生可能エネルギーへの関心が高まった背景を理解し、持続可能な社会の在り方を考える 4.「自然災害と防災」 ・日本の地形の特色 …日本の地形の特色を理解する ・地震災害・津波災害・気象災害 …日本の地形の特色から地震発生のメカニズムや気象災害を理解し防災について考える
理解度の目標値(期末補習の基準)	(前後期共通 次の3つの観点で補習基準を設定する) ①教科目標の観点から授業への出席を重視し、出席状況が半分を下回った場合。 ②試験で出題する論述問題が未記入および観点が足らないと判断した場合。 ③それぞれの生徒にあった最低限の理解度を試験等で把握し、理解や向き合う姿勢が足りないと判断した場合。 (次にあげる項目について学習の到達目標としたい) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	

学習上の ポイント	・社会にある様々な事象について知識を習得し、問題点などについて、自分の考えを持つことができる。また、自分の考えを表現し、 主張することができる。 ・社会の事象は、自分の生活に大きく影響しており、また、各国の歴史、政治、経済、地理条件など様々なことは、繋がっていることに気づける。 ・地理的要因が自分たちの生活に大きく影響しており、また、産業や食文化、自然災害など様々なことは、繋がっていることに気づける。 ・他者の意見を受け入れ、理解尊重し、またそうすることによって自己の理解を深めることができる。
その他の学び	・公共の授業進度に合わせ、学習内容の補完を行う（例：法律、選挙）その際、アクティブラーニング要素を取り入れることに留意したい。 ・地理的分野の内容を学ぶことを重視し、特に日本とその周辺域の人文地理的内容を学習テーマとする。
教科を通じて 学んで欲しいこと	・政治や経済などが自分の生活にとって身近なものであると気づき、社会形成の一員であるという自覚を持つ。 ・現代の国家政治や経済の仕組みを理解し、次年度以降の歴史学習の基礎とすること。 ・地理的な見方・考え方を通じて社会の課題を論理的に考える力を身に付ける ・グローバルな視点とローカルな視点を持ち、多様な世界を理解する ・社会的事象に常に関心を持つようになること。
学習教材	・「公共」（東京書籍）　　・「地理総合」（東京書籍） ・その他、必要に応じて教材を設定する。
その他	

2025年度(令和7年度)【通学型】

教科	数学	学年	Ⅰ	クラス	Ad/Ba	担当	奥山・長嶋

教科目標	基礎的な知識の習得をし、数学のよさを認識できるようにする。指導方法を工夫・改善することによって、生徒一人ひとりが意欲的に取り組み、論理的思考力や問題解決能力が高まるように努める。

科目	数学Ⅰ

	前期	後期
学習内容	◇数と式 ・整式 中学校の復習をしながら、文字を使った式の表し方の約束を確認し、正しく文字式を扱うことができる。 分配法則や乗法公式を逆に用いて因数分解することについて理解し、目的に応じ、見通しをもって扱えるようにする。 ・実数 根号を含む式の基本的な計算をすることができる。また、分母の有理化について理解し、それを活用する能力を伸ばす。	◇方程式と不等式 ・方程式 因数分解や平方の形を利用した解法について理解し、解を求めることができるようにする。また、解の公式を利用できるようにする。 ・不等式 不等号の意味を理解し、数量の大小関係を表すことができ、解を求めることができるようにする。 ◇2次関数 ・関数とグラフ 2次関数の概念を理解し、特徴を学ぶ。平方完成をし、軸と頂点を求めることができる。最大値や最小値を求める際、2次関数のグラフを利用することができるようにする。 ・2次関数のグラフと方程式・不等式 グラフとの関係を考え、方程式や不等式の解の意味を理解する。
理解度の目標値(期末補習の基準)	・基本的な正負の四則演算ができる。 ・基本的な展開や因数分解ができる。 ・基本的な平方根とその計算ができる。	・基本的な1次方程式・1次不等式ができる。 ・因数分解を利用した2次方程式ができる。 ・解の公式を利用した2次方程式の計算ができる。 ・1次関数の傾きと切片が求められる。 ・2次関数の頂点と軸が求められる。 ・基本的な平方完成ができる。 ・基本的な2次不等式が求められる。
学習上のポイント	・正負の四則演算はもちろん、文字を利用した計算ができる。 ・年間を通して、因数分解や平方根は利用するので、後期以降も確認をする。	
その他の学び	・学習の定着を図るために、演習問題を実施する。また、数学への興味・関心をもってもらう内容も取り入れていくよう心掛ける。 →賢くなるパズル・・・四則演算の計算をスムーズにし、思考力・集中力を高める。 →フォーマテリアル・・・トランプを利用し、計算力を高める。	
教科を通じて学んで欲しいこと	・自ら学び自ら考える力や創造性の基礎となる力を学習内容を通して育成されるよう留意する。 ・問題解決への道筋を構成する力を養う。 ・単なる計算ではなく、数学的な見方や考え方をすることにより、日常生活を豊かにする。	
学習教材	新数学Ⅰ（新数学Ⅰ 新数学Ⅰ 解答編（東京書籍）	
その他	・習熟度には分けるが、共に同じ学習をする。 ・前期・中間・後期の試験結果でAd/Baの入替をするが、点数だけではなく数学的な思考力も参考にする。 ・成績の評価の方法は、出席や授業態度（意欲+関心+態度）、課題等の提出状況で判断する。	

教科	理科	学年	1年	クラス	学年	担当	井出/島﨑

教科目標	科学の知識が、日常生活を便利にしたり、自分の身を守ることや環境を守ることにつながったり することを実感し、高校理科の学習の土台となる知識と、疑問から思考を深める力を身につける

科目	科学と人間生活

	前期	後期
学習内容	[前期:学習内容] 1.「物体と物質」 ものを“物質”としてとらえる視点を持ち、これから学習する内容の着目点を養う。 2.「元素と原子」「原子の構造」 物を作るには材料が必要であり、その究極の材料が「元素」であることを理解する。また、少ない材料でこれだけ多くの物が身の回りにあふれていることを実感し、自分の生活環境に興味を持つ。 全ての物は原子から成り立っているという概念を持ち、原子構造を理解する。 3.「原子や分子の熱運動」 原子や分子が熱運動しており、それを表すのが温度であることを理解する。温度の表し方、熱運動による現象についても学ぶ。 4.「微生物とその利用」 微生物の存在を認識し、その働きによって起こっている影響を理解することができる。 5.「ヒトの生命現象」 免疫が体を守ってくれていることを知る。 自分の体の仕組み、働きを理解することができる。	[後期:学習内容] 6.「化学式」 化学式から元素と原子の組み合わせを読み取る。 さまざまな物質の化学式を覚える。 7.「化学反応式」 化合物内の原子が入れ替わることによって、新たな物質が誕生することを学ぶ。 反応の前後で原子(質量)が変化しないことを学ぶ。 また、この学習より「理科」に対する難解なイメージを払拭する。 8.「自然景観と自然災害」 自然災害の仕組みを学び、正しい知識をもとに、災害が起きた時の防災に活かすことができる。 9.「物質の化学」 プラスチックの種類と特徴について理解し、身近なものを持続的に利用していく姿勢を身につける。 金属や繊維についても仕組みや働きを身に着け、身近なものを科学的な視点で見ることができる。
理解度の目標値 (期末補習の基準)	1. 元素記号を原子番号順に36番まで覚えること 2. 原子の構造を描くことができ、質量数を理解していること 3. 温度の意味を理解し、セ氏温度と絶対温度の換算ができること 4. 微生物やヒトの体のしくみについて正しい知識を身につけている	1. 化学式を覚え、化学反応式を正しく完成させることができる 2. 自然災害や身近な様々な物質について正しい知識を身につけ日常生活に生かすことができること
学習上の ポイント	1. 正しく漢字が書ける 2. アルファベットが順番どおりに書ける。大文字と小文字の区別がつく 3. 正負の計算、四則演算ができる 4. コンパスや定規を使わずに〇や線が描ける	
火･木の 学習内容	□ 通常授業の復習と演習 □ 通常授業を理解する上で補足する必要がある計算練習や知識 □ +αとなる科学的知識や実験	
教科を通じて 学んで欲しいこと	1. 周りの現象に目を向ける好奇心(「なぜだろう?」「不思議だな」と感じる気持ち) 2. 理系科目に対するイメージの払拭 3. 「わからないこと」が「わかるようになる」楽しさの実感 4. 「知らなかったこと」を「知る」喜び 5. 日々の生活に“豊かさ”を感じ、感謝する気持ち 6. 学習行動の積み重ね(日々の成長)によって、このような学習ができるようになっているという実感と自己肯定感 7. 「楽しむ時は楽しむ」「やるべきことはやる」というメリハリ 8. 「プリントの整理と管理」「提出期限を守る」などの社会的ルール 9. 学んだ知識が、日常生活やこれからの人生に“役立つ”という学ぶ意味づけ	
学習教材	東京書籍 科学と人間生活	
その他	■ 上記の目標でもある「理科」を学ぶベースを作る期間と考え、習熟度別の編成はせずクラス単位で実施する。 また、クラス毎の雰囲気などを把握する機会ともする。 ■ 可能な範囲で実験などの体験的学習も実施する。	

教科	保健体育	学年	I	クラス	共通	担当	松澤

教科目標	心身の健康を保つために必要な知識を身につけること。苦手なことにも挑戦したり、前向きに生きる姿勢や態度を育むこと。他者とのつながりを育むこと。

科目	体育

	前期	後期
学習内容		座学　1 スポーツの始まり～近代スポーツ 2 スポーツの中の多様性 3 スポーツを文化としてとらえる 4 オリンピック 意義 実技　共通　体を動かすこと ストレッチ 種目　体ほぐし ビーチボールバレー スマイルボーリング ハイキング バスケットボール 学年の状況に応じて
理解度の目標値(期末補習の基準)	座学　3回の報告課題の達成度が70%に達していない場合 実技　規程の時間数に達していない場合、見学等でじゅうぶんと判断されない場合	
学習上のポイント	抵抗感・苦手意識をひくくする内容を実施し、不参加の割合を少なくすること。 前向きに取組めるような雰囲気作りを心掛けること。 自発的な活動につながるように配慮すること。	
その他の学び	他者の取組を見学・応援することを通して、スポーツや体を動かすことに前向きに関わる姿勢を育むこと。	
教科を通じて学んで欲しいこと	ひとりでは、学べないことを学ぶ、体験する。	
学習教材	現代高等保健体育（大修館書店）	
その他	生徒の実態に応じて、学習強度や内容を検討し、実施をすること。	

教科	保健体育	学年	1	クラス	共通	担当	松澤

教科目標	心身の健康を保つために必要な知識を身につけること。苦手なことにも挑戦したり、前向きに生きる姿勢や態度を育むこと。他者とのつながりを育むこと。

科目	保健

	前期	後期
学習内容		1 生活習慣病 概略 予防から回復 健康診断の意義 2 がん 種類 予防 健康な生活をおくること 3 健康からみた運動・食生活・休養・睡眠の意義 4 喫煙・飲酒・薬物 リテラシーをたかめる 5 熱中症と水分補給 恒常性と熱中症
理解度の目標値(期末補習の基準)	3回提出の報告課題の達成度が70%に達成しない場合 規程の時間数を出席していない場合	
学習上のポイント	教科書を読み込むこと 内容を要約して述べること 教科書の内容を踏まえて自分の考えをのべること	
その他の学び	年度末試験時に時事内容を盛り込みことを通して、社会の変化に興味をもつこと	
教科を通じて学んで欲しいこと	他者の意見を聞く、他者との違いにきづく、他者との共通点があることを知る 無意識のなかでも健康が保たれていること	
学習教材	現代高等保健体育（大修館書店）	
その他		

2025年度(令和7年度)【通学型・集中スクーリング型】

教科	美術	学年	1年	クラス	学年	担当	古川

教科目標	造形的な活動や鑑賞を通して、豊かな感性や表現力を育てるとともに、美術の役割や価値を理解し、自らの生活や社会文化の中に活かしていく力を養う。

科目	美術Ⅰ

	前期	後期
学習内容	[前期:学習内容] 1. 鑑賞・理解 ・美術史・文化の理解 ・美術作品への理解 ・自分や友人の作品を見て、感想や意見を共有する 2. 表現 ・色彩 ・表現課題Ⅰ ・成果発表	[後期:学習内容] 1. 鑑賞・理解 ・美術史・文化の理解 ・美術作品への理解 ・自分や友人の作品を見て、感想や意見を共有する 2. 表現 ・デザイン・工芸 ・立体 ・表現課題Ⅱ ・成果発表

理解度の目標値 (期末補習の基準)	1. 美術の創造活動に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組んでいる。 2. 感性や想像力を働かせて、想像的な表現の構想を練っている。 3. レポートの提出 4. 表現課題の提出 5. 既定の時間数を出席
学習上の ポイント	1. 意欲的、主体的に表現や鑑賞に取り組み、想像的な美術の学習を追求する。 2. 自分で作品をつくる体験と、他者の作品や美術作品を鑑賞する体験を結びつけて学ぶ。 3. 講評や鑑賞の場で、他者の感じ方や意見を尊重し、自分との違いから新しい発見を得る。 4. 制作や鑑賞を通して、自分の感性・価値観を見つめ直し、自己表現や自己理解を深める。
火・木の 学習内容	
教科を通じて 学んで欲しいこと	1. 自分の感じたことや考えを、形や色、素材を使って表すことで、自分自身をより深く理解し、表現する楽しさを知ってほしい。 2. 日常の中にある美しさや面白さに気づき、自由な発想を大切にしながら、創造する力を育んでほしい。 3. 美術が社会や文化の中で果たしてきた役割を学び、作品の背景や意味を理解することで、生活や将来に活かしてほしい。 4. 仲間の作品や多様な美術作品を鑑賞し、互いの表現を尊重し合うことで、多様な価値観に触れ、広い視野を持ってほしい。 5. 学校での学びをきっかけに、美術を生活の中で楽しみ、豊かな人生を築いていく姿勢を身につけてほしい。
学習教材	高校生の美術Ⅰ(日本文教出版)
その他	特になし

教科	英語	学年	1	クラス	Ad・Ba共通	担当	茅野・平林

教科目標	単語及び文法事項の基礎定着を目指す

科目	英語コミュニケーションI	
	Ad:茅野、Ba：平林	Ad:平林、Ba：茅野
	前期	後期
学習内容	1.「名詞・代名詞」 ・名詞の単数形，複数形を正しく書くことができる。 ・代名詞の格変化を覚え、使えるようになる。 2.「be動詞（現在形）」 ・主語に応じてbe動詞を使い分けることができる。 ・be動詞を用いて、肯定文・否定文・疑問文を作ることができる。 3.「be動詞（過去形）」 ・主語，時制に応じてbe動詞を使い分けることができる。 ・be動詞の過去形を用いて、肯定文・否定文・疑問文を作ることができる。 4.「教科書Lesson 2 Australia's Cute Quokkas」 ・本文中で使われている語句を理解する。 ・本文の内容を理解する。 5.「教科書Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period」【Ad】 ・本文中で使われている語句を理解する。 ・本文の内容を理解する。	1.「一般動詞（現在形）」 ・一般動詞の現在形を用いて、肯定文・否定文・疑問文を作ることができる。 ・三人称単数の場合s（es）がつくことに注意する。 2.「一般動詞（過去形）」 ・一般動詞には規則動詞と不規則動詞の2種類があることを理解し、読み書きできる。 ・一般動詞の過去形を用いて、肯定文・否定文・疑問文を作ることができる。 3.「進行形」 ・現在形と現在進行形、過去形と過去進行形の違いを理解する。 ・進行形の用法を理解し、それを用いて表現できる。 4.「教科書Lesson 10 Pigs from across the Sea」 ・本文中で使われている語句を理解する。 ・本文の内容を理解する。 ・助動詞の理解を深め、表現できる。
理解度の目標値(期末補習の基準)	・名詞の単数形、複数形を書くことができる。 ・代名詞の変化一覧表が書ける。 ・主語、時制に応じてbe動詞を使い分けることができる。 ・主語、時制に応じて一般動詞を使い分けることができる。	・基本的な一般動詞の原形，過去形が書ける。 ・主語、時制に応じて一般動詞を使い分けることができる。 ・現在形と現在進行形、過去形と過去進行形を使い分けることができる。 ・本文の内容を理解している。
学習上のポイント	・アルファベットを正しく読み書きできる。 ・英文の基本的なルール（文頭は大文字、文末にはピリオド等）を理解している。 ・be動詞、一般動詞共に主語、時制に応じて正しく使うことができる。	
その他の学び	・火曜日⇒授業内容の復習や英語を用いた活動をAd/Ba合同で行う。 ・木曜日⇒コミュニケーション活動、国際理解教育（タラジャ先生）	
教科を通じて学んで欲しいこと	・英語は文法を勉強する教科という強いイメージがあるが、「コミュニケーションの方法」を学ぶ教科でもあること。 ＊英語を用いたコミュニケーションだけではなく、友人とのかかわり方等も学ぶきっかけとしてほしい。 ・他国の言語や文化に触れることで、視野を広げ外の世界に興味を持つこと。 ＊自分の持つ世界が基準ではなく、国や人によって様々な文化や考え方があることに気付いてほしい。	
学習教材	・東京書籍 All Aboard! English Communication Ⅰ ・英単語テスト（毎週水曜日実施）→5月～。単語ブック「クラウンチャンクで英単語Basic」を使用	
その他	・入試及びプレセミナーの学習状況を、今後の授業プリント作成の参考とする。 ・プレセミナーのプリントの理解度、進み具合を見て、Ad/Baのクラス分けを行った。 ・英語検定を実施する。（5月、9月、1月） ・プリントは講座ごとにアレンジして使用する。	

2025年度(令和7年度)【通学型】

教科	家庭	学年	1年	クラス	学年	担当	上野

教科目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を通して，様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
科目	「家庭基礎」（東京書籍）

	前期	後期
学習内容	[前期：学習内容] 1章 生涯を見通す ・今までの自分を客観的に振り返る ・「18歳成年時代」の自立 ・ライフコースの参考になる各種例や資料を示し，集める 2章 人生をつくる ・ライフスタイルの多様性や課題 3章 子どもと共に育つ ・子どもに関する情報 ・子どもが健やかに育つ社会 4章 超高齢社会を共に生きる ・身近な高齢者と接触する機会を持つ ・高齢者に関する情報 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方 5章 共に生き，共に支える ・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社 会に向けて個人や地域の役割	[後期：学習内容] 6章 食生活をつくる ・食品成分表やアミノ酸成分表の見方 ・食品の1日の摂取量を具体的に把握 ・実習の計画性・安全性 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方 ・保存や加工の方法，食中毒や食物アレルギー ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術 ・配膳やマナー ・郷土食や行事食、日本の食文化の特徴 7章 衣生活をつくる ・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう，管理や手入れの工夫 8章 住生活をつくる ・防災，日照，換気などに関する環境性能 9章 経済生活を営む ・日常のニュースから実際に起こっている消費者問題 ・販売方法や支払い方法の多様化、契約の重要性 10章 持続可能な生活を営む 11章 これからの生活を創造する
理解度の目標値（期末補習の基準）	1. 社会制度としての家族や家族と法律を理解理解していること 2. 性と生殖に関する健康について理解していること 3. 高齢期を支える社会の仕組みや課題について考え理解を深めること 4. 国・地方公共団体の制度などの支援体制について理解していること	1. 食生活の課題や食事の意義，環境の変化などを理解していること 2. 「健康によい，栄養バランスのよい食事」を理解していること 3. 衣服の管理や手入れの工夫について理解していること 4. 快適かつ健康，安全な住居の条件を理解していること 5. 消費者問題、消費者保護制度について理解していること
学習上のポイント	1. 家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活・環境などの基礎的なことに係る技能を正しく身に付ける。 2. 生活の中から問題を見いだして課題を設定する。 3. 様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，課題の解決に主体的に取り組む。 4. 自分や家庭，地域の生活の充実向上を図るために実践する。	
火･木の学習内容		
教科を通じて学んで欲しいこと	1. 生活を主体的に営むために必要な家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活・環境などの基礎的なことに係る技能を身に付けること。 2. 生活の中から問題を見いだして課題を設定し考察したことを、根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けること。 3. 様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善すること。 4. 自分や家庭，地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養うこと。 5. 環境や社会との関係のなかで生きる術を学び、生きるための思想を探ること。	
学習教材	・東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造 ・自校作成の教材資料	
その他	特になし	

2025年度(令和7年度)【通学型・集中型共通】